

第46回中国・四国中学校長研究会島根大会

島根県中学校長会

会長 塩川 寛 (大会実行委員長)

- 大会主題 : 「未来を切り拓く豊かな人間性と創造性を備え社会において
自立的に生きる日本人を育てる中学校教育」
- 大会期日 : 平成24年6月20日(水)～22日(金)
- 会 場 : 島根県松江市(島根県民会館・サンラポーむらくも)
- 主 催 : 中国・四国中学校長連絡協議会 島根県中学校長会
- 大会日程 : 6/20(水) 中国・四国中学校長連絡協議会・全体会分科会運営打合せ
6/21(木) 開会式・全体会(全日中報告・文部科学省講話)・分科会
6/22(金) 全体会(分科会報告等)・記念講演・閉会式



「神々の国、神話のふるさと」島根県において、また「国際文化観光都市、水の都」松江市において、第46回中国・四国中学校長研究会島根大会を開催した。大会直前の台風四号の影響により大会開催が危ぶまれたが、中国・四国の各県から1,040名の校長先生方をお迎えし、無事開催することができた。本大会の開催趣旨を以下のとおりとした。

今日、我が国は少子高齢化、知識基盤社会化、グローバル化などの急激な社会変化に加え、未曾有の被害をもたらした昨年の東日本大震災により日本社会は大きな変化を余儀なくされている現状

である。

また、学校教育においては、いじめや不登校、校内暴力等の生徒指導に関わる解決や解消が引き続き重要な課題となっているとともに、学力の向上はもとより、家庭・地域社会との連携を一層強化した学習や生活の基盤づくり、規範意識の育成が求められている。

本大会は、今まで以上に意義のある大会となる。それは、新たに大会主題が「未来を切り拓く豊かな人間性と創造性を備え社会において自立的に生きる日本人を育てる中学校教育」となったこと、そして、新学習指導要領が全面実施された年度に開催するということである。21世紀を担う子どもたちは、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をバランス良く身につけ、創造的生き抜く力を形成・鍛錬し、未来を切り拓いていかなければならない。また、私たち校長は、全日中教育ビジョン「学校からの教育改革」を踏まえ、確固たる教育理念やビジョンのもと、強いリーダーシップとマネジメント力を発揮して学校経営・運営の一層の充実を図っていかなければならない。

本大会が、校長の英知と創意を結集し、中国・四国地区の中学校教育の一層の開発と充実に資することを期待したい。

島根県中学校長会としても、ホスト県として本大会を開催するに当たって、以下の願いや思いをもって臨んだ。本県においては、平成16年度に島根県教育委員会が「しまね教育ビジョン21～ふるさとを愛し、未来を切り拓く子どもを育む～」を策定し、今後10年間を見通した島根県の教育の基本的な理念や目標、施策の方向が示され、各学校で実践・推進している。また、平成22年度より「ふるまい向上プロジェクト事業」を県民運動として展開しており、島根の礼儀、作法、しぐさ、思いやり等のふるまいの良さ、素晴らしさを県内外に発信している。

このことを踏まえ、島根県中学校長会の今年度の活動スローガンとして「絆（きずな）」と「ふるまい」を掲げている。本大会においても、県内100名の校長の「結束力」と「おもてなしの心」をもって、大会の成功に向け、一致団結して取り組んでいくことを共通理解をした。

大会を振り返って

心配された天候も、大会期間中全く雨も降ることなく、時折明るい日差しもみられるほどに回復し、盛会裏のうちに終わることが出来た。

この研究大会をとおして、参会の校長先生方が様々な教育課題に向き合い、自分の学校に置き換えながら、今後の学校経営の充実・推進のために多くの示唆を得られたのではないかと考えている。

大会一日目の全体会Ⅰでは、全日中細谷美明総務部長から中学校教育の現状と全日本中学校長会の取組について、丁寧なご説明をいただき、中学校長会としての取組の重点を明確にいただいた。また、文部科学省からは、大臣官房尾崎春樹審議官に本年度の文部科学省の重点施策や課題等についてご講話をいただき、学校現場が今後目指すべき方向性についてご指導をいただいた。さらに、午後からの分科会においては、貴重な提案発表をしていただいた校長先生から学校経営や教育に対する熱い思いや願いを感じるとともに、強いリーダーシップとマネジメント力の重要性を改めて痛感させていただいた。

大会二日目の記念講演では、島根県松江市出身の東京大学社会科学研究所教授玄田有史先生からは、「希望のチカラ」と題してご講演をいただき、先生の豊富なご経験をもとに、希望学という新しい切り口から、これからの教育の在り方、特にキャリア教育について深い示唆に富んだお話を伺

い、大変好評であった。また、全体会Ⅱでは、各分科会での協議概要について司会者の方から報告があった。最後に本大会の宣言案及び決議案が満場一致で承認された。

閉会式において、この三日間の研究会での成果を各学校に持ち帰り、「生かせるところから、できるところから」実践していただきたいとお願いをしたとともに、本年度の第1回全日中理事会において、前全日中大江会長が話された次のような言葉を引用させていただき、大会を締めくくった。『教育改革のキーワードは「教員の資質向上」と「学校力の向上」であり、教師の学びを定着・充実させることが今求められている。「学び続ける子どもを育成するためには、学び続ける教師であらねばならない』と。本大会をとおして、その言葉をお借りするならば、「学び続ける教師を育成するためには、学び続ける校長であらなければならない」との意を強くしたという所感を述べさせていただいた。

最後になりましたが、本大会の開催にあたりまして、多大なご支援とご指導いただきました文部科学省をはじめ、関係の皆様方に対し、心から御礼を申し上げます。

次回、第47回大会は、「伊予の国愛媛県」で開催されます。愛媛大会のご成功と来年度またお会いできることを祈念しております。出雲弁では、ありがたいのことを「だんだん」といいます。「だんだん」。